伝説と歴史の舞台を歩く

田村山

長浜市
DATA
- 取材日▼2013年4月5日
- 天候▼晴れ
- 歩行距離▼約3km
- 歩行時間▼約1時間



忠魂碑が立つ田村山の西端のピークは眺望を遮る樹木などなく、琵琶湖のパノラマ風景が満喫できる。

神話〝一簀山〟と民話〝鯉が池〟の舞台

JR田村駅のすぐ近くに、古墳のような標高わずか138mの田村山がある。別名〝一簀山〟と呼ばれている。国土創世の神話によると、富士山は近江国の土を掘って一夜で作られ、その跡が琵琶湖になったという。土は神様がモッコで運んだが、夜が明けてしまい、モッコに残った土がこぼれてできたのが田村山だとか。巨人ダイダラボッチ[※1]の伝承のように、国づくりのエピソードは全国各地に残っているが、話のスケールが本当に大きい。

田村山の山頂には〝鯉が池〟がある。いまは水が枯れて窪みしか残っていないが、ここに伝わるのは切ない恋の物語。寺を訪れる美しい娘に恋した若い僧が、娘の着物の裾[※2]に釣り針を掛け、こっそり後をつけたところ、娘は血を流しながら山に帰り、山頂の池に身を投げて緋鯉になったという。そして激しい雷雨の日、鯉は竜となって天に昇り、それ以後、この池は〝鯉が池〟と呼ばれるようになった。これには男女が入れ替わった説もあって興味深い。

田村山は尾根の道幅が広く、山麓の忍海神社、多田幸寺近くの慰霊碑、猫岩などからもアプローチが簡単。短時間でまわることができる。忠魂碑の丘から見る琵琶湖、三角点の切り開きから望む伊吹山など、隠れた絶景ポイントもある。



モデルコース

田村駅 10分 多田幸寺・慰霊碑登山口 3分 忠魂碑 10分 鯉が池・田村山三角点 5分 猫岩登山口 10分 忍海神社 10分 田村駅

※移動時間はあくまでも目安です。

※1　三上山という説もある。
※2　民俗学者・柳田國男の研究でも知られる。語源は「大太郎法師」か。

多田幸寺の山号は一簀山（いっきざん）。平安時代後期、源賢（げんけん）法師が開山した天台宗のお寺で、現在は臨済宗妙心寺派。本尊の木造薬師如来坐像は国の重要文化財で、50年に1回開帳される秘仏。春には田村山の斜面を利用した庭園の花が楽しめる。



田村山南麓にある多田幸寺

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。